

- 1 科目区分 : 大学院 : 教育実践高度化
- 2 授業科目 : 研究指定校実習
- 3 タイトル : オーダーメイド実習「現代的教育課題に関する先進的実践研究からの学び」
- 4 所属・氏名 : 教育学研究科 高橋 葉子

(1) 授業の基本情報

科目区分 : 大学院教育実践高度化専攻
 科目名 : 研究指定校実習
 担当教員 : 高橋 葉子
 登録学生数 : 8 名

(2) 研究内容

教職大学院では、地域と共にある学校づくりに貢献できる人材育成を目指しており、**変化する地域・教育現場に適応できる資質・能力を身に付けた教員の育成**に取り組んでいる。そこで、カリキュラムは、**現場密着を重視し、授業にける理論と現場での実践の融合**が実現するよう工夫・改善を図っている。

今回報告する研究指定校実習は、他の実習とは異なり、まず県内外の現代的教育課題に関する先進的実践研究校をリストアップし、その中からディプロマポリシーに基づき実習校を選択した。正に、**学びたいことが学べるオーダーメイド実習**である。以下に、具体的な授業研究内容を報告する。

① 研究指定校実習の目的

愛媛県内外の研究指定校での訪問観察実習を通して、**教育の現状と課題及びその解決のための研究実践の実情**を知り、学校経営に対する理解を深めるとともに、**現代的教育課題を解決する力を養う**。

【教育実践開発コース】

- ・現代の課題に対応した先進的実践を展開している学校の特徴を正しく理解し、一般的な課題として改善策を提示する。
- ・先進的な取組の独自性や組織的な取組の有効性についての的確に把握し、自校の課題解決に向けて実行可能で具体的な改善策を提示する。

【リーダーシップ開発コース】

- ・先進校と勤務校との違いや特徴を組織・カリキュラム・指導方法等の観点に基づき、正しく理解し、自校の新たな課題を発見し、実行可能で具体的な改善策を提示する。

② 実習先選定の流れ

教職大学院専任教員の**ネットワーク力**を活かした研究実践校リストの作成

↓

教育改革の方向性を見据えた**現代的教育課題の視点**による選定

↓

研究課題及び実践的指導力の向上を目指す観点に基づく学生の希望調査

↓

各自治体教育委員会または各学校への申請

③ 実習実施方法

・選定したテーマ

ア特色ある道徳教育推進事業

イICT活用による教育の質の維持向上

ウ高校教育におけるアクティブ・ラーニング等の研究実践

・実習実施体制

研究家教員、実務家教員の連携体制による、引率・実地指導及び成果発表の場の設定

・実習期間 : 10月～1月、2月9日のポスターセッション

・事前指導内容

実習校の概要説明による自己の実習目標や実習の進め方の明確化

具体的な実習計画の立案

研究概要、研究体制、実践状況の記録累積

・事後指導内容

実習校の実践研究内容及び自校の

実践課題に関する省察レポート作成

観察記録及び省察レポート等の

ポートフォリオ作成

・実施上の留意点 (工夫・改善)

☆自己の研究課題や自校の教育課題との関連重視 (改善策の具体的な提示)

☆**地域の核となる学校現場の具体的実践を通した学校の役割の理解促進**

☆自己の実践的指導力の向上

④ 評価の観点

【実習事前・事後指導及び実習中】

- ・課題意識を持った記録や参加意欲・態度
- ・積極的な協議等への参加

【実習報告書・省察レポート】

- ・研究概要のまとめく簡潔・特徴>
- ・自校及び自己の教育実践に生かす内容の提案
- ・機能的・有効的なポートフォリオ

【報告会】

- ・先進的取組の正確な概要及び表現
- ・新たな課題発見と具体的で実現可能な改善策の提示

※全教員による到達度評価

⑤ 授業評価

学生の省察レポート及びポスターセッションによる報告会で本実習の成果を考察する。

ア特色ある道徳教育推進事業

- ・「特別の教科 道徳」の実施に向けた各小・中学校段階の授業改善（研究体制等）の在り方を追究することができた。
- ・教師の主発問・揺さぶりが、主体的・対話的で深い学びとなり、道徳的価値理解、人間理解、自己理解につながる授業構成要素として確認できた。
- ・次年度からの具体的な実施内容（年間指導計画・別葉、授業モデル、評価等）を確認することができた。

ICT活用による教育の質の維持向上

- ・人口減少社会におけるICT活用による合同授業の充実・展望が窺えた。（表現力・社会性の育成、多様で豊かな人間関係の構築、学習意欲の向上、教師の授業力・組織力の向上）
- ・学びの基本の定着、授業づくり・評価の充実、カリキュラム・マネジメント、学校間連携の重要性を確認した。
- ・教育行政のリーダーシップによる実証事業の成果と今後の課題を理解することができた。



ウ高校教育におけるアクティブ・ラーニング等の研究実践

- ・高校教育における授業改善を参観することで、中学校段階における身に付けるべき力や学習指導の在り方等、中高の連携について理解が深まった。
- ・アクティブ・ラーニングの成果や入試対策との関連等について、高校教員間での課題の共有と授業改善に向けた意欲化につながっている。
- ・自校の課題解決に役立つよう、他校の実践を活かし、組織力向上や授業改善に努めたい。
- ・高校の現場における授業改善に向けた取組が進んでいることを自校において啓発し、研修体制等の改善に自分自身も力を尽くしたい。

(3) 地域社会を核とした

教育と研究のつながり

- 今回選定した研究指定校のテーマは、全て現代的教育課題であり、全て学校・家庭・地域社会との連携・協働が求められるものであることから、教員に求められる資質・能力の育成に向けた教育実習対象としての価値は評価できると考える。

- 全時間、観察及び協議への参加による実体験等、実感を伴う体験的な学びの場であり、実践的指導力の向上につながる。

- 実習内容イに関しては、小規模校を対象とする自治体主体の文部科学省実証事業であり、地方創生の実現に向けた学校教育の役割等についても研究することができた。

- 大学と学校現場とのつながりを構築し、恒常的に研究開発実践校を確保していくことが今後の課題である。



